



第 8 回 産業技術大学院大学 デザインコンテスト受賞者決定

未来のデザイナーがテーマ「回転」に挑戦

産業技術大学院大学では、「感性と機能を融合したものづくり」への理解を深め、未来のデザインプロフェッショナルを発掘・育成すべく、「回転」というテーマで、創立以来第 8 回目となるデザインコンテストを実施しました。

海外からの応募を含め、未来のプロフェッショナル・デザイナーを目指す学生から、全 128 点の応募があり、以下のとおり最優秀賞 1 点、佳作 3 点を決定しました。

なお、表彰式は、2 月 26 日（木）にクリスタルヨットクラブにて実施します。

◆ 受賞者及び作品名（敬称略）

◆ 最優秀賞 [副賞30万円]

- 石川 和也（千葉工業大学大学院 修士1年）

作品名『**mind CYCLONE**』

◆ 佳 作 [副賞5万円]

- 加藤 賢一（芝浦工業大学 3年）

作品名『**SENSE SYNCHRONIZER**』

- 石樽 華那子（名古屋市立大学 2年）

作品名『**PLANETAL**』

- 梶原 薫（京都造形芸術大学 2年）

作品名『**RounDish**』

※受賞作品詳細は別紙を参照ください。

■ 第 8 回デザインコンテスト表彰式

【開催日時】 平成 27 年 2 月 26 日（木） 17 時 30 分～18 時 00 分

【開催場所】 クリスタルヨットクラブ クラブハウス（品川区東品川 2-3-16）

【問合せ先】 産業技術大学院大学管理部管理課

電話：03-3472-7832 Fax：03-3472-2790

最優秀賞 石川 和也（千葉工業大学大学院 修士1年）

作品名『mind CYCLONE』

設定した期日に従って、渦巻きが回転し、乗っかっている球体がどんどん真ん中に引き寄せられていく。“期日に迫られる場面”を表現する。



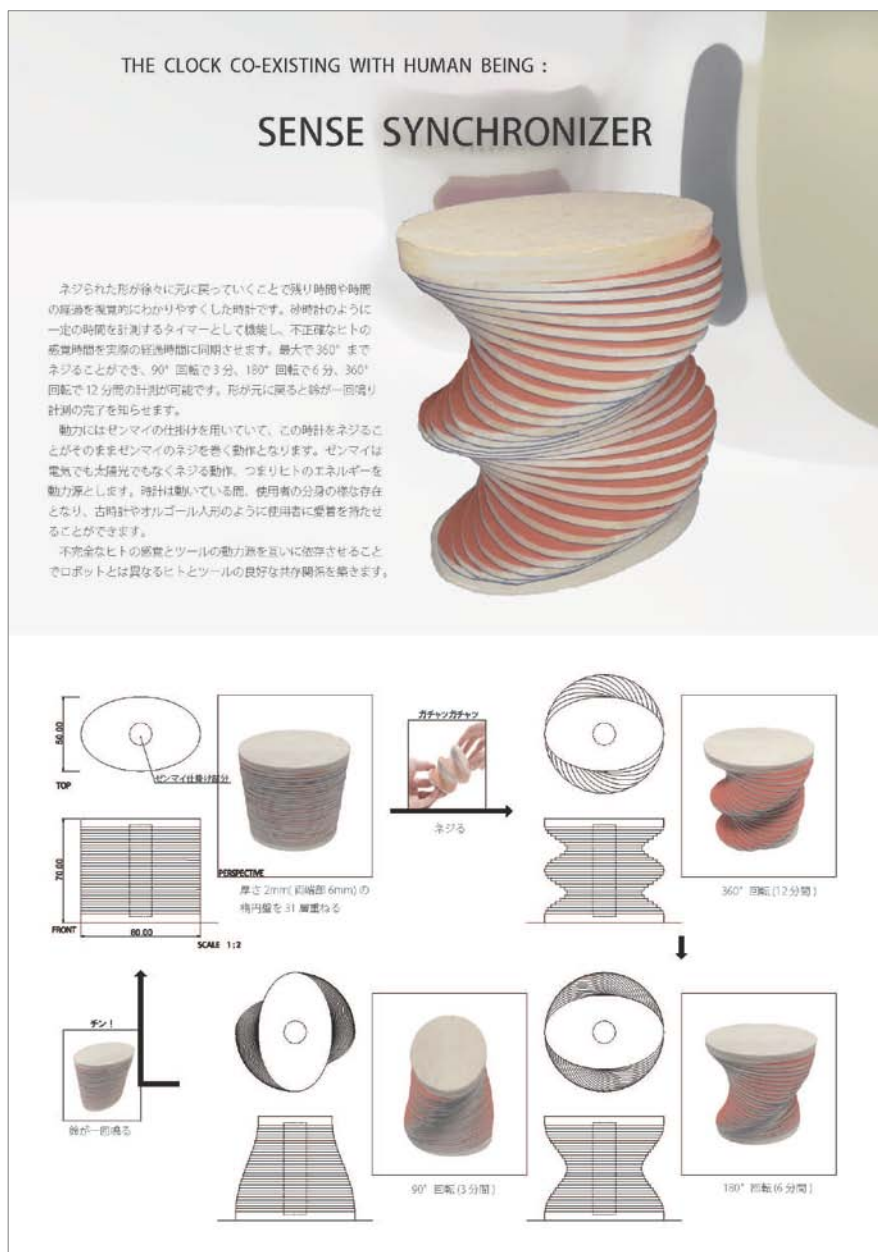
【受賞理由】

回転する渦巻きの中の球体が、引き寄せられるように中心に移動する。この作品は、球体が設定した期日を目指して中心に移動することで、残りの時間と重要な通過点をシンプルな機構で示したものである。

“期日が迫る”という焦りや危機感を吸い込まれるような動きで巧妙に表現した優れたデザインとして最優秀賞に選定した。

作品名『SENSE SYNCHRONIZER』

測定開始から一定の時間を計測するタイマー。ネジられた形が徐々に元に戻っていくことで残り時間や時間の経過を視覚的に表現する。



【受賞理由】

ねじって変形した円柱状の立体が徐々に元の形に戻る。この作品は、変形した立体が元の形に戻るまでの時間をタイマーの設定した残り時間として利用するものである。

徐々に変化する形状のおもしろさと時間の経過を重ねあわせるという発想とデザイン性の高さを評価した。

作品名『PLANETAL』

歯ブラシに装着する持ち手とコップ。歯磨きをすることによりディスプレイに星が増える仕組みで、歯磨きの習慣化をコンセプトとした提案。

星が導くライフサイクル
PLANETAL

★CONCEPT★
お母さんの仕事で歯磨きを卒業する小学校高学年は、虫歯が歯に生えかわる大切な時期です。
PLANETALは、そんな子供たちを歯磨きがしたくなるように促すことで正しい歯磨きの仕方を覚え、毎日きちんと自ら歯磨きをする習慣をつけることができる歯ブラシセットです。

コップ
FRONT SIDE TOP

持ち手

ブラシの動き・振動・継続時間からその情報をコップに送り、その日の歯磨きをディスプレイに映し出される星の数で示します。

★「自分だけの星空」をつくることから生まれる、睡眠と歯磨きのサイクル >>>

POINT1. 夜寝る前
ある程度の時間、正しい磨き方で歯を磨くとPLANETALの夜空の星が増えます。増え方はランダムです。

POINT2. 朝起きた後
朝、睡眠中に起きていた星の減少を食い止めます。この後日中は特に変化はない。

虫歯の原因である細菌は、主に睡眠中に増殖します。そのため寝る前と起きた後に歯磨きをし、菌を減らしておく必要があります。

学校にいる昼間は星の増減は無い。

FUNCTION1. 隅々まで磨けているか。
前歯 側歯 奥歯
<< コップの曲面と歯並びがリンクしており、磨き残しがあると星が現れない。

FUNCTION2. 歯ブラシの正しい持ち方
>> 力が入りすぎず、ブラシも痛みにくいベングリップを身につける。

★歯磨きの見える化 >>>

その日の歯磨きがしっかりできたかが見てすぐわかるので、お母さんも我が子の歯磨きを安心して見守ることができ、しっかりできた日には褒めてあげるなどして親子間のコミュニケーションにもなります。

【受賞理由】

正しく歯磨きができるコップの側面のディスプレイに星空が描き出される。この作品は、歯ブラシに装着した持ち手のセンサーが歯磨きの動きを計測して上手に出来たかを示してくれるものである。

良い生活習慣をライフサイクルに取り入れたいという思いを、子供心をくすぐるデザインにまとめ上げた点を評価した。

作品名『Roundish』

回転することでカタチを変えられる紙食器。深さを三段階に調節でき、幅広い料理に対応できる。

Roundish

- 回って変わる紙食器 -

Roundishは回転によって変形する紙食器です。
既存の紙食器は皿型、ボウル型とカタチが決まっていますが、Roundishは、用途に合わせて紙食器の高さを三段階に調節できます。また、平面の紙を立体に立ち上げて使うため、多くの食器をコンパクトに常備しておくことができます。もしもの災害が起きた際の避難先や楽しいアウトドアでの料理に、Roundishはあなたのお役に立ちます。



1 深皿型
→主食や汁気の少ないおかずが
パン、串料理など

2 茶碗型
→主食や汁気の多いおかずが
ご飯、フルーツなど

3 汁椀型
→汁ものに
スープ、シチューなど

カトラリーのイラストで、深さが3段階あることを示している。半スプーンの絵柄をスプーンの絵柄と重なる位置に持っていき、穴に絵を差し込むことで自立する。

スケッチブックのように1枚1枚剥がして使う。

洗って再利用することもできるが、最終的には廃棄することを考えている。可燃ごみで処理されるため、環境負担は高くない。

③の汁椀型に変形すると50ml、100ml、150mlの3つの目安がついており、容量カップとしても使えるようになります。

普段の料理で、複数の調味料を消費する際、などに便利です。

中心の円を内側に折り込めると、ソースなどの調味料を溜めるスペースがどの深さの場合でもできます。

別皿を消費する必要も、食品と同じ皿の中に入れた調味料が広がってしまう問題もなくなります。

【受賞理由】

紙皿を回転させながら折り曲げると平らな皿が鉢から椀へと変化する。この作品は、さまざまな料理にあわせて深さや形を三段階に調節できるよう工夫した紙食器である。皿の変形方法やデザインは検討を要する点もあるが、災害時やアウトドアなどでの利用者の期待に素直に応えた発想を評価した。